

保存修復学

前期実習

《担当者名》 教授 / 齋藤 隆史 t-saito@ 准教授 / 松田 康裕 ymatsuda@
 講師 / 泉川 昌宣 s-izumi@ 助教 / 永井 康彦 nagai@
 助手 / 中脇 和輝 k-nakaw@ 助手 / 大谷万由子 mayuco@
 非常勤講師 / 池田 浩之 非常勤講師 / 石井 真生 非常勤講師 / 中嶋 智仁
 非常勤講師 / 今北 将人 非常勤講師 / 甕 富美子 非常勤講師 / 小池 俊之
 非常勤講師 / 松尾寿美恵 非常勤講師 / 松田 哲郎 非常勤講師 / 中脇 禎輝
 非常勤講師 / 有路 博彦 非常勤講師 / 川守田 暢

【概要】

講義において理解した理論をマルチメディア機器を活用した双方向教育による実習により、咬合器、顎模型といった教材を用いて具現実施し、再確認することにより理解を深め、かつ、その科学的根拠による診療技術の基本を習得する。なお、この基礎実習は、病院において実際に患者と接して行う臨床実習の基礎を成す重要な過程である。

【学修目標】

マネキン、顎模型を用いて、臨床における診療の姿勢及び器具の操作を習得する。
 講義の理解とともに、歯の切削法、窩洞形成法及びう蝕検知液を併用したう蝕の除去法を習得する。
 保存修復分野の診療における一連の基本的診療術式を実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス、器具・器材配付、貸与及び点検	実習の目的、意識と進め方を説明し、器具・器材の配付、貸与を行い、器具・器材の点検とその名称、用途、使用法について把握する。 E-5-1-1	齋藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 中脇 和輝 大谷万由子 非常勤講師
2	診療の基礎	保存修復における診療の基礎（診療姿勢・切削器具の取り扱い）を習得する。 E-5-1-1 E-5-1-2	齋藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 中脇 和輝 大谷万由子 非常勤講師
3	基本 級基本窩洞形成	実際の口腔内を模したマネキンを用いて、基本級窩洞形成法を習得する。 E-5-3-1-1	齋藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 中脇 和輝 大谷万由子 非常勤講師
4	ラバーダム防湿	保存修復前処置の一つであるラバーダム防湿を習得する。 E-5-3	齋藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 中脇 和輝 大谷万由子 非常勤講師
5	う蝕病巣の除去法	軟化象牙質付人工歯にう蝕検知液を応用して、う蝕病巣の除去法を習得する。 E-5-3-1-1	齋藤 隆史 松田 康裕 泉川 昌宣 永井 康彦 中脇 和輝 大谷万由子 非常勤講師

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

保存修復学（前期）の評価方法

・ [保存修復学（前期講義）（前期実習）評価方法] 中間試験(筆記試験)45%、定期試験(筆記試験)45%、小テスト(筆記試験)10%

前期実習は定期試験で実習内容について問う問題を出題し評価する。

前期実習の作成物、検印、レポートの評価は後期実習試験で行う。

・ [判定法] 中間試験(筆記試験)45%、定期試験(筆記試験)45%、小テスト(筆記試験)10%で60点以上を合格とする。

保存修復学（後期）の評価方法

出席回数が講義70%および実習70%に満たない場合、定期試験および追再試験の受験資格を得ることはできない。

・ [保存修復学（後期講義）評価方法] 定期試験(筆記試験)90%、小テスト(筆記試験)10%

・ [保存修復学（後期実習）評価方法] 実習試験(筆記試験)50%、製作物・検印及び小テスト・レポート（50%）

・ [判定法] 後期講義（50%）、後期実習（50%）、60点以上を合格とする。

保存修復学（前後期）評価方法

・ [判定法] 前期評価（50%）、後期評価（50%）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

「保存修復学臨床基礎実習の手引き」う蝕制御治療学分野

【参考書】

「保存修復学」千田彰 宮崎真至 林美加子 向井義晴 斎藤隆史 編集 医歯薬出版

「保存修復学21」田上順次 奈良陽一郎 山本一世 斎藤隆史 監修 永末書店

「保存修復クリニカルガイド」千田 彰、寺下 正道、田上 順次、奈良 陽一郎、宮崎 真至、片山 直 編集 医歯薬出版

【学修の準備】

実習書の該当ページを事前に読んでおくこと。（30分）

毎回実習の最初に、前回及び当日の実習内容に係る小テストを実施するので必ず予習・復習をする。（30分）

診療室での行為を想定した実習であるので身だしなみを整えておく。

【ディプロマ・ポリシーと該当授業科目との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

担当者全員が歯科医師である。

【実務経験を活かした教育内容】

開業医、勤務医として実務に携わる臨床経験10年以上歯科医師が非常勤講師として保存修復学分野における患者対応・注意事項について教育を行っている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している